「相手が好きだ」という気持ちから、束縛してしまったり 相手の携帯やメ ルが気になり勝手にチェックしてしまう、相手の服装や髪型などを指示してしまう・

(ドメスティック・バイオレンス)といいま あった者の間に起こる暴力のことをDV 夫婦など親密な関係にある、もしくは

罪にもつながります。 の交際している男女間で起こる暴力を rDVどちらも重大な人権侵害で、時に犯 また、高校生や大学生など若い世代 **トDV** といいます。このDV、デ

トDV実態調査」によりますと、いわゆる 山形県が平成23年度に実施した「デ



齋藤由美子さん

複数のDV行為を受けている場合もあり ることを知ってほしいです。「束縛される な暴力の5つに分類することができます。 性的暴力、生活費を渡さない等の経済的 社会的暴力、性的な行為を強要する等の かに、大声で怒鳴る・おどす等の精神的暴 力、付き合いや交友関係を制限する等の し、傷つくことを言われた」等、被害者は (図2)これらすべては、実はDV行為であ

のが、束縛する社会的暴力のようです。 その中でも、若い世代に起こりやす



# が比較的高い一方で、デ て「言葉も意味も知っていた」人は3.0% にとどまっています。(図1)DVの認知度 人は3.3%でしたが、デ トDVを知らな -ロ>につい

はもちろんDVですが、これらの暴力のほ い人がまだまだ多いのが現状です。 そして、殴る、蹴るなどの身体的な暴力

# DVについて「言葉も意味も知っていた」

偏った思いこみにより、相手を自分の物 だと考えてしまい、支配が始まります。 暴力は、目的ではなく、自分の思いどお 恋愛関係になり、親密度が増すと

りに相手を支配しコントロー

から」と暴力を我慢したり、「私が悪いか 多いようです。 ら」と自分の中に抱え込んでしまうことが 若い男女間では「愛されている証拠だ

(D)

思います。おそらく皆さんは粗暴な人が加 そのような人は少なく、ごく一般的な 害者で、被害者は大人しく弱々しい人とい ます。ただ、双方とも一見した特徴はないと が強く、その上非常に嫉妬深い傾向があり 加害者は男らしさ、女らしさの思い込み ジがあると思いますが、実際には

性的DV

性行為を強制する

身体的DV

なぐる

ける

首をしめる

0.9%-

0.9%-

0.8%-

精神的DV

どなる

傷つくことを言う

無視する

DVの種類

社会的DV

束縛する 携帯やメールで行動をチェックする 服装などを指示する

89.0%

85.3%

93.4%

内閣府『男女間における暴力に関する調査』(平成23年11月~12月実施)より

経済的DV

借りたお金を返さない

借金をさせる

貢がせる

図3 交際相手からの被害経験

■あった ■なかった ■無回答

実1 相談窓口

※四捨五入したため合計値が100%を前後することがあります。

衣! 怕談念口		
実施機関	電話番号	受付日時
男女共同参画センター 「ファーラ」	023 645-8077	年末年始・祝日を除く毎日 一般相談の中で受けますが要予約 9:00~17:00
男女共同参画課	023 641-1212 (内線582)	年末年始・祝日を除く月~金 8:30~17:15
山形市 青少年指導センター (社会教育青少年課内)	023 631-4425	年末年始・祝日を除く月~金 13:00~17:00
	http://www.city.yamagata-yamagata.lg.jp/ (山形市公式 HP トップページ 、 少年メール相談のバナーよりアクセス )	
山形県 男女共同参画センター 「チェリア」	023 629-8007	年末年始・月曜日・毎月第3日曜 日を除く、火〜金 火・水・木・金 9:00〜17:00 土・日・祝日 13:00〜17:00
県警察本部 (警察相談専用電話)	#9110または 023	毎日 24時間

642-9110

伝えることが出来るので有効です。 とは、若い世代の人たちに確実に情報を

> 示しないで、相談者の意思を尊重し、どう あげてください。「こうしなさい」とは指 したいのかを聞くことが大切です。 そして、とにかく相手の話を聞いて トDV被害者は、外からの情報が

づけるのではないでしょうか。**。好き、と** 

。束縛』は違うことに気付き、お互いを尊

重し大切にする関係が大事だと知って

その意味でも高校や大学等の学校で

まず話を聞くことから始めてほしい つくのではないでしょうか。その時には、 いる場合でも、子どもの様子の変化に気が

**要です。**そうすれば、デ

-DVにあって

しやすい雰囲気を作っておくことが重

親子間で交際をオープンにして、話

トDVに関する講座を開催するこ

均衡な関係になった時に「おか-

しい」と気

**ることが大切です**。そうすれば、も.

先ずは若い世代の人たち自身が

DVを防ぐには?

家庭での対応は?

被害者に相談されたら?

取材を終えて

DV」とはどういうことかを

知

は家族に相談している率が高いです。 がほとんどのようですが、学校の先生より

を先ずは受け止めてください

身近な人に相談したいという気持ち

若い世代では、友だちに相談するケ

ると気付かずに相談をしているかも. 遮断されています。自分が被害にあってい ません

DVを無く-

していくことにつながるのだと

(編集協力員

後藤

桂子)

正しい知識と理解を持つことが、社会から

ひとりでも多くの人がデ

DVに関す

がりやすい傾向にあるともいわれており、

DVが、将来的にDV被害につな

13.7% (なんと7

きで

を受けたことがある」と答えた人は、女性が

~20歳代の頃に「交際相手からDVの被害

平成23年に実施した内閣府の調査でも10

相談機関を紹介してください。(表1 ています」といって身近な相談室や専門の そのような時は「あなたはDVを受け

ルする手段 「DV(ドメスティックバイオレンス)」、「デートDV」という

3)被害の多くは女性ですが、男性も被害 13. 7%、男性が 間における暴力に関する調査」では、デ 者になっています。 内閣府が平成23年度に実施した「男女 DVの被害経験がある人は、女性が 5.%となっています。

図

言葉を見たり、聞いたりして知っていましたか DV 93.3% 4.29 2.3% 0.2% 34.0% 55.0% DV 0.0% ■言葉も意味も知っていた ■言葉は知っていたが、意味は知らなかった ■言葉も意味も知らなかった 無回答

※四捨五入したため合計値が100%を前後することがあります。 山形県『デートDV実態調査』(平成23年9月実施)より





7 ぷらーな

図2

総数

女性

男性